

定期作況報告

平成 12年 8月
(8月 20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年に比べ高く、最低気温、平均気温は極めて高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比54％）。日照時間は平年並であった（平年比118％）。

8月上旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年に比べ極めて高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比45％）。日照時間は平年並であった（平年比97％）。

8月中旬：最高気温は平年に比べ極めて高く、最低気温はやや低く、平均気温はやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比22％）。日照時間は平年より極めて多かった（平年比252％）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、高温で寡雨多照に経過した。

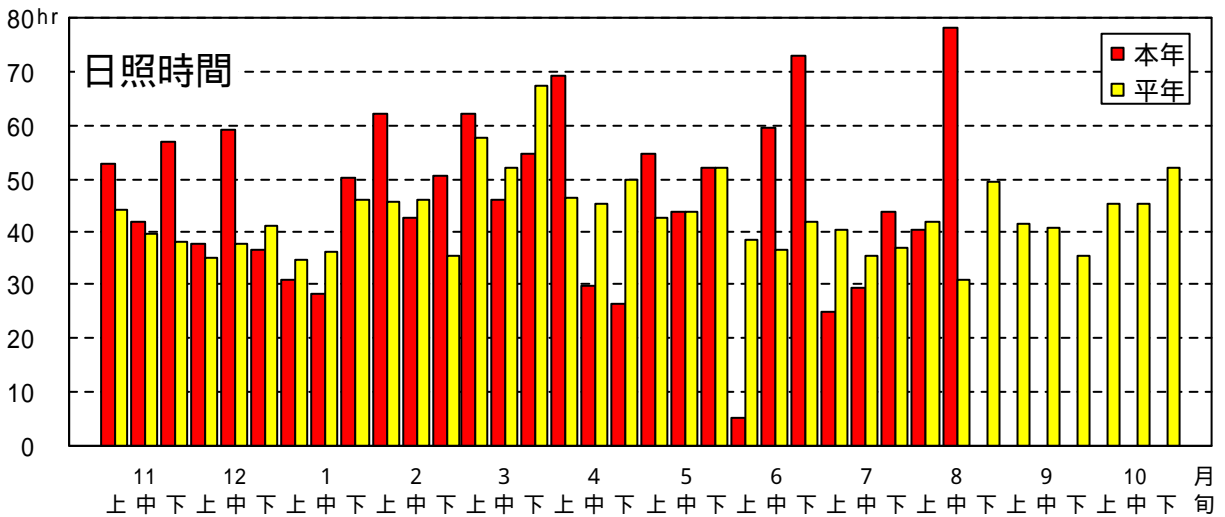
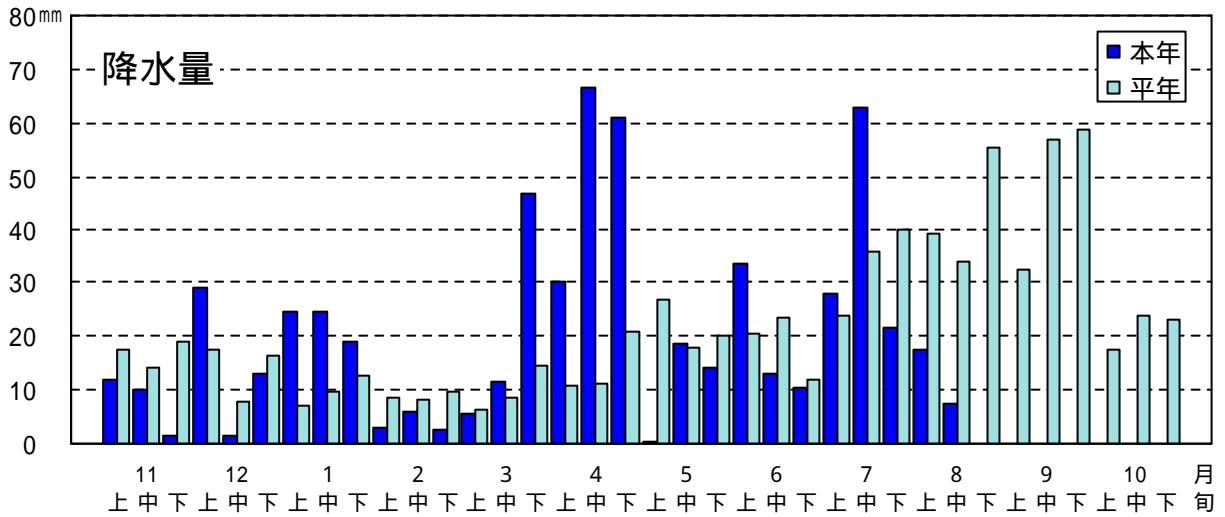
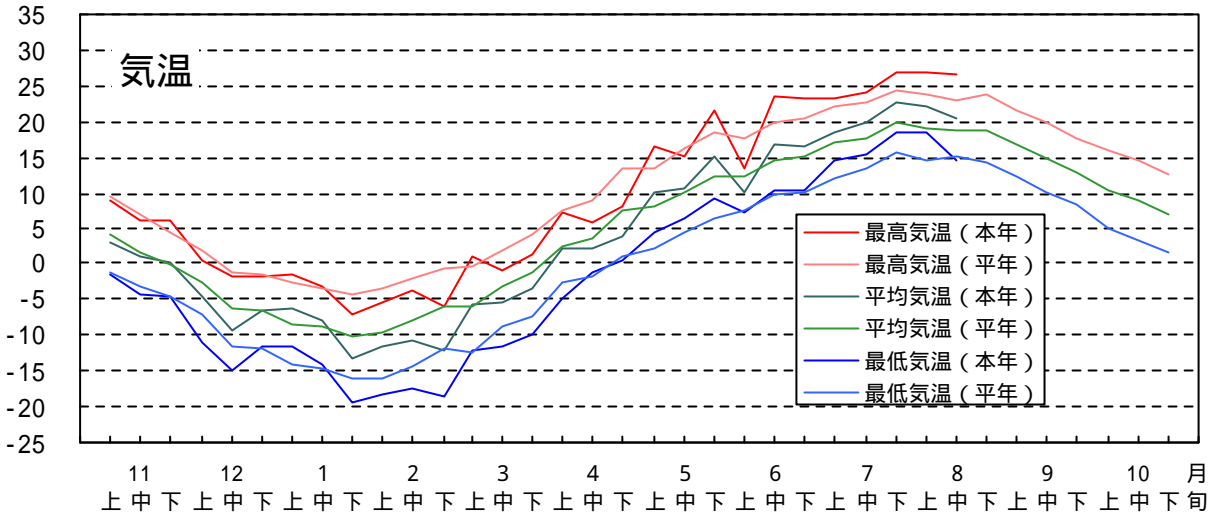
気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	22.6	19.9	2.7	26.8	24.5	2.3	18.6	15.8	2.8
8月上旬	22.2	19.1	3.1	27.0	23.9	3.1	18.4	14.6	3.8
8月中旬	20.4	18.9	1.5	26.5	23.0	3.5	14.7	15.3	0.6
平均	21.7	19.3	2.4	26.8	23.8	3.0	17.2	15.2	2.0

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	21.5	39.7	18.2	43.6	37.0	6.6
8月上旬	17.5	39.1	21.6	40.3	41.7	1.4
8月中旬	7.5	33.8	26.3	78.0	30.9	47.1
合計	46.5	112.6	66.1	161.9	109.6	52.3

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は、平成元～10年の10か年間の平均である。



2 . 当場の作況

1) 秋播小麦

作況：良

事由：秋播小麦の登熟期間である6月中旬から7月下旬の平均気温は平年より高めに推移し、日照時間は7月上旬が平年よりやや少なかったものの概ね平年並かやや長く、登熟は良好であった。成熟期は「ホクシン」を除き平年より1日～3日早かった。心配された倒伏は強稈性が弱い品種以外はほとんどなく、7月下旬は降水量も少なく雨による被害は受けなかった。穂数は品種によりやや傾向が異なり、全体ではほぼ平年並であったが「タクネコムギ」では平年より多く、「チホクコムギ」では平年よりやや多かった。千粒重は「タクネコムギ」を除き平年より大きく、子実重は平年を上回った。

以上のことから目下の作況は良である。

品種名	成熟期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	7.22	7.23	1	101	96	5	7.6	7.6	0.0	925	848	77
ホクシン	7.24	7.24	0	90	88	2	8.1	8.4	0.3	723	764	41
チホクコムギ	7.26	7.29	3	97	93	4	6.9	7.1	0.2	729	705	24
ホロシリコムギ	7.26	7.30	4	101	100	1	8.1	8.4	0.3	613	646	33

品種名	子実重(kg/10a)				千粒重(g)		
	本年	平年	比較	平年比(%)	本年	平年	比較
タクネコムギ	528	473	55	112	36.8	37.8	1.0
ホクシン	628	538	90	117	40.5	35.8	4.7
チホクコムギ	630	498	32	127	38.4	34.6	3.8
ホロシリコムギ	574	517	57	111	45.7	40.7	5.0

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成6年、8年、「ホロシリコムギ」、「チホクコムギ」は平成5年、8年を除く5か年の平均。ただし、「ホクシン」は平成8年、10年を除く3か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

2) 春播大麦(二条大麦)

作況：不良

事由：7月下旬以降は気温が高く、成熟期は平年より2日早い8月3日であった。発生の遅れた穂の無効化により穂数は平年より著しく少なかった。不稔率が高かったため、1穂当たりの稔実粒数は平年より少なかった。このため、子実重は平年比66%の低収であった。倒伏の発生が無かったため千粒重は平年よりやや重く、整粒歩合は平年より高かった。

以上のことから本年の作況は不良であった。

品 種 名	成熟期 (月・日)			稈長 (cm)			穂長 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	8. 3	8. 5	2	83	91	8	6.3	6.3	0.0

品 種 名	穂数 (本/㎡)			稔実粒数 (粒/穂)			子実重 (kg/a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	521	625	104	19.6	21.3	1.7	26.0	39.1	13.1

品 種 名	千粒重 (g)			整粒歩合 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	44.4	41.9	2.5	95.2	89.2	6.0

注) 平年値は前7か年中、平成5年、7年を除く5か年の平均。

3) 春播小麦

作況：やや不良

事由：平均気温は7月下旬以降も高めに推移し、成熟期は平年より4日早まった。成熟期の稈長、穂長、穂数は平年をやや下回っている。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	成熟期 (月・日)			稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	8. 9	8.13	4	80	89	9	7.8	8.2	0.4	485	508	23

注) 平年値は前7か年中、平成5年、9年を除く5か年の平均。

4) とうもろこし

作況：やや良

事由：抽雄期は平年より5~6日、抽糸期は平年より7日早かった。草丈は平年並で葉数が平年よりやや少なかった。6月下旬以降は気温が高く推移したため、両品種とも登熟が進んでいると思われる。

以上より目下の作況はやや良である。

品種名	抽雄期 (月・日)			抽糸期 (月・日)			草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ワセホマレ	7.23	7.29	6	7.30	8. 6	7	244	242	2	12.0	13.6	1.6
ダイハイゲン	7.25	7.30	5	7.31	8. 7	7	246	247	1	13.0	14.0	1.0

注) 平年値は前7か年中、平成5年と9年を除く5か年の平均。

5) 大豆

作況：良

事由：期間を通じて降水量は平年より少なかったが、平均気温は高く、日照時間も平年並以上であった。このため前節までの生育の遅れは概ね回復し、主茎長は平年をやや下回っているが、主茎節数・分枝数は平年並～やや上回っている。また着莢および莢の伸長は順調で、着莢数は平年を大きく上回っている。

以上のことから目下の作況は良である。

6) 小豆

作況：試験の中止

事由：本年は当初播種を予定していた圃場が前日の豪雨により播種不能となったため、急きょ新たな圃場を設定し試験を実施してきた。この際、十分な土壌条件の検討ができないまま試験を開始したことから、7月下旬頃より圃場全体に微量要素欠乏の症状が認められ、生育は著しい停滞傾向を呈している。従って、現在の生育は本年の気象条件を十分に反映した結果ではないと判断され、試験を中止することとした。

7) 菜豆

作況：やや良

事由：期間を通じて降水量は平年より少なかったが、平均気温は高く、日照時間も平年並以上であった。このため前節までの生育の遅れは概ね回復し、「大正金時」で主茎節数および分枝数が平年をやや下回っているが、草丈および手亡類の主茎節数・分枝数は平年並～やや上回っている。また着莢および莢の伸長・肥大は順調で、着莢数は平年をやや上回っている。

以上のことから目下の作況はやや良である。

種類	品種名	開花始(月・日)			主茎長・草丈(cm)			主茎節数		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	7.26	7.25	1	73.5	77.6	4.1	13.3	13.3	0
	トヨコマチ	7.22	7.23	1	55.8	57.4	1.6	11.0	10.9	0.1
小豆	エリモショウズ	-	7.27	-	-	44.3	-	-	12.6	-
	サホロショウズ	-	7.25	-	-	37.1	-	-	10.4	-
菜豆	大正金時	7.13	7.12	1	40.7	37.6	3.1	5.0	5.2	0.2
	姫手亡	7.23	7.22	1	51.4	46.8	4.6	9.6	9.2	0.4
	雪手亡	7.23	7.22	1	54.1	48.8	5.3	9.6	9.5	0.1

種類	品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個/株)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	6.0	5.5	0.5	90.7	66.6	24.1
	トヨコマチ	5.4	4.8	0.6	75.0	56.1	18.9
小豆	エリモショウズ	-	3.1	-	-	29.3	-
	サホロショウズ	-	3.3	-	-	35.6	-
菜豆	大正金時	3.3	3.8	0.5	19.3	17.1	2.2
	姫手亡	6.9	6.7	0.2	36.7	33.4	3.3
	雪手亡	8.2	7.1	1.1	37.8	32.9	4.9

注) 平年値は前7か年中、大豆は平成5年と11年、小豆は平成5年と9年を除く5か年の平均。

菜豆は前8か年中、平成6年と8年および再播した10年を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ

作況：やや不良

事由：茎長は「男爵薯」は平年より16cm短く、「紅丸」は6cm短い。気温が高く降水量が少なかつたため、塊茎の肥大は抑制気味となり、上いも重は両品種とも平年を下回っているが、二次生長がみられず日照も多かったことから、でん粉価は両品種とも平年より高い。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	茎長(cm)			茎数(本/株)			上いも重(kg/10a)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	42	58	16	3.5	3.6	0.1	4,101	4,355	254	16.4	14.3	2.1
紅丸	85	91	6	3.7	4.0	0.3	3,942	4,531	409	15.9	14.5	1.4

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」「紅丸」とも平成6年、9年を除く5か年の平均。

9) てんさい

作況：やや良

事由：7月下旬から気温が高く、降水量も少なかつたため、直播栽培の生育は地上部・地下部共に抑制され、ほぼ平年並になった。しかし、日照時間は平年より多かつたため、移植栽培の生育は依然として平年を上回っている。

以上のことから目下の作況はやや良である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	62.1	57.5	4.6	28.5	27.1	1.4	29.9	26.8	3.1
	ストーク	61.7	55.4	6.1	29.4	26.4	3.0	33.8	28.7	5.1
直播	モノホマレ	61.5	62.1	0.6	25.9	25.4	0.5	24.3	24.5	0.2

注) 平年値は前7か年中、移植栽培の「ストーク」は平成7、10年を除く5か年の平均、移植栽培の「モノホマレ」は平成7、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成5、10年を除く5か年の平均。

10) 牧草

作況：不良

事由：チモシー混播草地の2番草は平年に比べ、草丈がほぼ並で、マメ科率が高く、乾物率が低く、乾物収量の平年比が96%であった。また同単播草地の2番草は平年に比べ、草丈が高く、乾物率が低く、乾物収量の平年比が141%であった。両草地の1・2番草を合計した乾物収量の平年比は、混播で95%、単播で91%であった。またオーチャードグラス混播・単播両草地及びチモシー混播・単播両草地の1番草から今月までの乾物収量の合計の平年比は92%であった。

以上のことから目下の作況は不良である。

チモシー混播・単播草地 2 番草調査結果（8月8日刈取り）

草地	草種	草丈 (cm)			マメ科率 (%)			乾物率 (%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	チモシー	83	85	2	89.3	63.0	26.3	12.9	17.8	4.9
	アカクローバ	72	75	3						
単播	チモシー	84	62	22	-	-	-	19.0	26.0	7.0

同草地 1・2 番草収量調査結果（1 番草：6月19日 2 番草：8月8日刈取り）

草地	番草	生草収量 (kg/10a)				乾物収量 (kg/10a)			
		本年	平年	比較	対平年比 (%)	本年	平年	比較	対平年比 (%)
混播	1 番草	3689	3857	168	96	553	589	36	94
	2 番草	2691	2164	527	124	346	359	13	96
	合計	6380	6021	359	106	899	948	49	95
単播	1 番草	1481	1909	428	78	317	419	102	76
	2 番草	924	496	428	186	176	125	51	141
	合計	2405	2405	0	100	493	544	51	91

- 注) 1. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サップロ」である。
 2. 混播草地の乾物率は、イネ科・マメ科を併せた全体についてのものである。
 3. 平年値は混播・単播両草地とも、平成5年から平成11年までの前7か年のうち平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。

11) たまねぎ 作況：やや不良

事由：7月中・下旬の高温により、肥大期はやや早まった。その後8月上旬の高温により球肥大が抑制されたまま倒伏が進んだ。さらに、8月中旬の干ばつにより枯葉期が大幅に早まった。

早生品種の「改良オホーツク1号」では、球径は平年の約9割、球重は約8割である。中生品種の「北もみじ」、晩生品種の「スーパー北もみじ」では、8月20日現在の球径、球重は平年並かやや大きいものの、枯葉がかなり進んでおり、今後収穫までの球肥大は少ないものと考えられる。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	球肥大期 (月・日)			倒伏期 (月・日)			枯葉期 (月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	7.31	8.2	2	8.16	8.24	8	8.19	9.5	17
北もみじ	7.22	7.27	5	8.11	8.21	10	8.17	9.5	19
改良オホーツク1号	7.16	7.24	8	8.4	8.13	9	8.15	9.2	18

品種名	球径 (mm)			球重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	69.3	67.7	1.7	172.1	161.0	11.1
北もみじ	64.4	63.8	0.6	136.7	136.7	0.0
改良オホーツク1号	66.1	73.1	7.0	157.1	195.4	38.2

注) 平年値は、「スーパー北もみじ」が平成7～11年、「北もみじ」が平成6、8～11年、「改良オホーツク1号」が平成4、7～9、11年のそれぞれ5か年の平均。